

ヘアカラーリングによる皮膚トラブルを取り巻く実態

監修 矢上 晶子 先生

藤田医科大学 医学部 先端アレルギー免疫共同研究講座 教授
藤田医科大学ばんだね病院 総合アレルギー科 教授
藤田医科大学 総合アレルギーセンター センター長

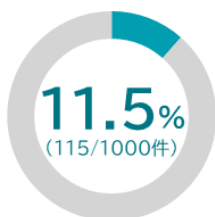


藤田医科大学
FUJITA HEALTH UNIVERSITY

hoyu
COLOR YOUR HEART

藤田医科大学 医学部 先端アレルギー免疫共同研究講座
ホーユー株式会社 イノベーションセンター

国民の約7割が使用経験のあるヘアカラーリングですが、**一部の使用者に皮膚トラブルの経験があると報告されています**



皮膚トラブルを経験した割合

日本ヘアカラー工業会による調査²⁾

- ヘアカラーリングによって自身の髪に対する満足度が上がり、その結果、生活の質が向上する¹⁾と報告されており、幅広い世代の身だしなみやヘアファッションの一つとして受け入れられています。
- 一方で、2015年に消費者安全調査委員会より「毛染めによる皮膚障害」に関する報告書³⁾が公表され、その使用に注意喚起がなされています。
- ヘアカラーリングによる皮膚トラブルの多くは皮膚一次刺激性皮膚炎ですが、アレルギー性も少なくありません⁴⁾。

～ヘアカラーリングによる主な皮膚トラブルの分類と症状の特徴～

分類	頻度	主な症状	特長的な症状発現部位・経過時間
皮膚一次刺激性接触皮膚炎	比較的高い	痛み、紅斑など	ヘアカラーリング製品接触部位 染毛中～短時間
遅延型アレルギー	低い	痒み、紅斑、浮腫を伴う皮疹	主にヘアカラーリング製品接触部位と周囲 染毛から24時間以降
即時型アレルギー	極めて低い	痒み、蕁麻疹、呼吸苦など	ヘアカラーリング製品接触部位から全身 染毛中～直後

アレルギー性の皮膚トラブルの場合には、使用継続により重症化する可能性があるため注意が必要です

- 皮膚トラブル経験後も髪を染め続けたいという意向が高く、使用が継続されることがあります。
- アレルギーを繰り返すなかで、遅延型アレルギーの症状が重症化したり、重篤な即時型アレルギーを発症することがあります⁵⁾。
- アレルギー性の皮膚トラブルでない場合は、頭皮状態を整えることで、皮膚トラブルを生じることなく染毛できるようになることが期待されます。
- 正しい診断に基づく、適切な指導が重要です。

ヘアカラーリング製品の分類と代表的なアレルゲン

商品分類	染毛メカニズム	染毛性能	考慮すべきアレルギー	代表アレルゲン
医薬部外品 ヘアカラー（酸化染毛剤）		・明るい色にも暗い色にも染められる ・1回の染毛ですっきり染まり、2～3か月程度色が持つ	遅延型アレルギー 即時型アレルギー	パラフェニレンジアミン
ヘアブリーチ（脱色・脱染剤）		・髪を明るくできるが色素は含まれない	遅延型アレルギー 即時型アレルギー	過硫酸塩
ヘアマニキュア		・髪を明るくできない ・髪へのダメージが少なく、1か月程度色が持つ	特になし	特になし
化粧品 カラートリートメント カラーシャンプー		・髪を明るくできない ・髪へのダメージが少なく、使用のたびに少しずつ染まる	遅延型アレルギー	塩基性青99 コカミドプロピルベタイン
ヘアマスカラ カラスプレー		・髪を明るくできない ・髪へのダメージが少なく、手軽に着色でき、一度のシャンプーでおちる	特になし	特になし

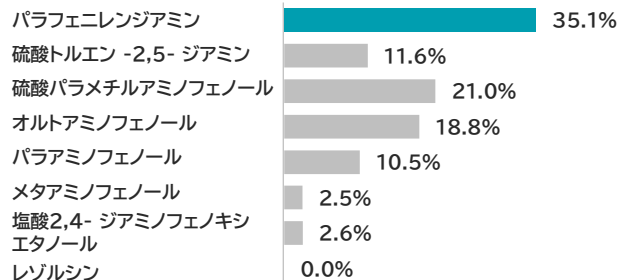
- ヘアカラーリング製品において、最もアレルギーを起こし得る製品はヘアカラー（酸化染毛剤）です。
- ヘアカラーアレルギーと診断された際には、ヘアマニキュアやカラートリートメントなどの酸化染料を含まないヘアカラーリング製品を使用することが推奨されます⁶⁾。
- ただし、ヘアカラーリング製品によるアレルギーでは、まれに塩基性染料などの染料や香料、界面活性剤、防腐剤なども原因となることがあるため、診断・指導の際にはこれらによる皮膚トラブルの可能性も考慮する必要があります。

ヘアカラーリング製品におけるアレルギー検査は裏面へ

ヘアカラーリング製品による皮膚トラブルの診断には 皮膚テストによる検査が有用です

遅延型アレルギーの場合

- 主な原因はパラフェニレンジアミンであると報告⁷⁾されており、パラフェニレンジアミンが含まれているパッチテストパネル(S) (佐藤製薬)の使用(図1)もしくは、症状を誘発した製品のオープンテストの実施(図2)が推奨されます。
- 理美容師など複数の染料に感作されている症例でも、多くの場合にパラフェニレンジアミンは陽性となります。
- まれにパラフェニレンジアミンに感作していなくても、硫酸パラメチルアミノフェノール、オルトアミノフェノールなどで陽性となる⁷⁾場合もあり、保険収載の検査薬のみでは原因特定に至らないこともあるため注意が必要です。



日本における酸化染料のパッチテスト陽性率

ヘアカラーリング製品による接触皮膚炎が疑われた203症例を対象とした日本接触皮膚炎研究班(日本皮膚免疫アレルギー学会)の調査(参考文献7より一部改変)

即時型アレルギーの場合 (ヘアカラーによる即時型アレルギーの詳細はNo.4を参照⁸⁾)

- ヘアカラー(酸化染毛剤)、ヘアブリーチ(脱色・脱染剤)製品使用による症例報告^{8,9,10)}が散見されます。
- 症状を誘発した製品のオープンテスト(図3)が行われます^{9,10)}。
- 保険収載された検査薬はなく、個別の症例報告ではパラフェニレンジアミンや過硫酸塩などの成分プリックテストで診断された事例^{9,10)}もありますが、画一された検査方法は無く課題となっています。

皮膚一次刺激性接触皮膚炎の場合

- ヘアカラーによる皮膚トラブルの90%以上が皮膚一次刺激性接触皮膚炎であると報告⁴⁾されています。
- 上記皮膚テストの結果、遅延型や即時型アレルギーの可能性が低い場合には、皮膚一次刺激性接触皮膚炎の可能性を疑います。



図1. 背部でのパッチテスト貼付像



図2. 遅延型アレルギーのオープンテスト結果



図3. 即時型アレルギーのオープンテスト結果

- オープンテストでは、製品(原液もしくは希釈液)を背部や前腕屈側に5×5 cmを限度に直接塗布し、20～30分後に膨疹反応の有無を判定し(即時型反応の確認)、その後、通常のパッチテストと同様に48時間以降の反応を複数回判定します¹¹⁾。
- 皮膚テストの方法に関する動画は以下をご参照ください。

○藤田医科大学 総合アレルギーセンター
アレルギー情報ステーション
(<https://www.fujita-hu.ac.jp/general-allergy-center/information-station/movies.html>)

参考文献

- 1) 萩原ら, 第2回日本化粧品技術者会学術大会, 2024.
- 2) 日本ヘアカラー工業会安全性委員会, COSMETIC STAGE, 2017.
- 3) 消費者安全調査委員会, 消費者安全法第23条第1項の規定に基づく事故等原因調査報告書, 2015.
- 4) 接触皮膚炎診療ガイドライン 2020.
- 5) 矢上 晶子, 日本化粧品学会誌, 2023.
- 6) 松永ら, Visual Dermatology, 2018.
- 7) Ito A. et al., Contact Dermatitis, 2017.
- 8) Fukunaga T. et al., Contact Dermatitis, 1996
- 9) Iwata J. et al., Allergol Int, 2019.
- 10) 原田ら, 皮膚臨床, 2018.
- 11) 日本アレルギー学会, 皮膚テストの手引き, 2021.
- 12) 「職業性皮膚障害の外的因子の特定に係る確な診療法の研究・開発、普及」研究報告書, 独立行政法人労働者健康福祉機構, 2008. (<https://www.research.johas.go.jp/booklet/pdf/04s.pdf>)
- 13) 日本ヘアカラー工業会 (<https://www.jhcia.org/wearing-gloves/>)
- 14) 日本ヘアカラー工業会, ヘアカラーリングABC (<https://www.jhcia.org/haircolor-abc/index.html>)
- 15) 西岡 和恵, MB Derma, 2013.
- 16) Woo YR, et al., Eur. J. Dermatol., 2018.

〈本件に関するお問い合わせ先〉

藤田医科大学 医学部 先端アレルギー免疫共同研究講座
TEL: 052-323-5772 MAIL: minerva@fujita-hu.ac.jp

ホーユー株式会社 イノベーションセンター

TEL: 0561-57-6892 MAIL: innovationcenter@hoyu.co.jp

Topics.

理美容師におけるヘアカラーリング製品による皮膚トラブル

- 職業性皮膚疾患は、職業病の25～30%を占めます¹²⁾。実際に理美容師の81.2%に手荒れ経験があるなど、理美容師の手の皮膚トラブル対策は大きな課題です¹³⁾。
- 理美容師はシャンプーなど手が乾燥する仕事が多く、バリア機能の低下によりアレルギーを獲得しやすくなり、ヘアカラーアレルギーなどを発症し、最終的に離職することになった事例も少なくありません⁶⁾。特に若い理美容師は手荒れの原因となるシャンプーなどの作業が多いため、手荒れ対策が重要です。
- 普段から手の保湿をきちんと行い、ヘアカラーやパーマ液、シャンプーなどの薬剤を扱う作業では手袋を必ず着用し手を防御すること、また、一度使用した手袋を再利用しないことが、手の良い状態維持に繋がり、アレルギーの発症予防にも有効です。
- 湿疹がある時は、症状に合った強さのステロイド外用薬を処方し、保湿も一緒に行うよう指導し、しっかりと治すことが大切です。
- 長期的に就業を維持する上では、患者本人の治療・指導だけでなく、雇用者にも安心・安全に配慮された就業環境構築の重要性が伝わるよう医療機関がサポートすることも大切ではないでしょうか。



シャンプーなどによる手荒れ(イメージ)



理美容師向けヘアカラー施術時の手袋着用啓発(日本ヘアカラー工業会)

Topics.

ヘナ配合ヘアカラーリング製品による皮膚トラブル

- ヘナはミソハギ科の灌木で、日干した葉が染毛に使われ、ヘナ単独で染毛した場合、仕上がりの色は橙味が強くなるため、白髪を目立たなくする白髪染めとしての効果は期待できません。
- まれに暗い色に染めるヘナ製品が販売されていますが、そのような製品にはヘナ以外の染料や酸化染料(パラフェニレンジアミンなど)が配合されている場合があります¹⁴⁾。実際、ヘナ製品に含まれるパラフェニレンジアミンによるアレルギー性接触皮膚炎の症例報告¹⁵⁾や即時型アレルギーの症例も経験しており、ヘアカラーアレルギー患者に代替製品を指導する際には注意が必要です。
- また、ヘナ製品使用後に黒皮症を生じた事例も報告¹⁶⁾されており、我々も同様の症例を何例か経験しています。多くの場合、ヘナ製品の使用を中止することで黒皮症の症状は軽快していきます。黒皮症の発症時期とヘナ製品の使用時期が近い場合は、ヘナによる可能性を考慮していただくことが良いかと思います。



ヘナ製品使用後に頬を中心に黒皮症が生じた事例

アレルギー受託解析サービスは
こちらからご相談ください



<http://ic.hoyu.co.jp>

© 2025 Hoyu Co., Ltd. All rights reserved.